

## 評価委員会総合評価

研究課題名：沖縄地方の低周波地震の震源決定と発生状況等の調査

評価委員

委員長：小泉 耕

委員：石井雅男、永戸久喜、牛田信吾、山中吾郎、山田雄二、瀬古 弘、  
清野直子、須田一人、干場充之、吉田康弘、加藤輝之、川添安之

評価年月日：令和4年1月31日

### 1. 総合評価

- 非常に優れた研究であった。
- 優れた研究であった。
- 研究を実施した意義はあった。
- 失敗であった。

### 2. 総合所見

本研究は、低周波地震を自動で検出し、沖縄地方のプレート境界の固着状況解明に繋げることを目的としたものである。特に南西諸島海溝付近ではGNSSを設置できる陸地（島）が少ないことより、プレートの固着状況を監視する上で低周波地震は極めて重要であり、本研究を行う意義は大きい。

本研究により、沖縄地方の低周波地震の活動状況の監視の改善と気象研究所における浅部低周波地震検出技術の改善の両面に資するもので、振幅が小さいために困難な沖縄付近の低周波地震の検出に努め、南西諸島海溝付近で発生する低周波地震の発生頻度や発生場所を確認できたことは評価できる。また、低周波地震によりプレートの固着状況を監視できることがわかってきたのは比較的最近のことであり、地方官署においてこのような研究を行うことは、地震を深く理解する人材を育成する上でも意義があることであり、地方官署職員の知見向上に繋がった点も評価できる。さらに、大学とも情報交換等を行っていることも評価すべき点である。また、沖縄気象台の技術ノートや沖縄管内調査発表会に多くの発表をまとめている点も評価できる。

一方で、琉球大との検出数との違いについては、研究当初から相違点等を伺うなど問題点の把握を行えば、より多くの成果が得られたのではないかとと思われる。

以上のことから、本研究は、概ね適切な目標設定と研究体制のもとに実施され、想定通りの成果が得られた優れた研究であったと評価する。

なお、今後の成果の活用にあたっては、以下に留意して、取り組んで欲しい。

・本研究による検出結果は琉球大・中村教授によるものとの違いが明確であることから、その原因を調べることでさらに知見・経験が得られると思われるので、今後も何等かの形で継続的な取り組みを期待したい。

・現時点では、(最終的な目的の)プレートの固着状態の解明というところまでは至っていないので、今回の成果を踏まえて、さらに前進することを期待する。